

アラブは なぜユダヤを 嫌うのか

中東イスラム世界の
反ユダヤ主義

藤原和彦 著

読売新聞・元カイロ支局長

中東を
理解する
ために

アラブ人や
イスラム教徒が
ユダヤ人を
拒否する
本当の理由

ミルトス

定価 本体1400円+税

まえがきに代えて――

荒唐無稽のイスラエル人スパイ事件

イラク戦争で崩壊したフセイン元政権は、アラブ民族主義を掲げる一方でユダヤ人抑圧策を採った。ユダヤ人はかつて、首都バグダッドの人口の二割を占めた。しかし、二〇〇三年三月のイラク戦争開戦時点で四十人にも満たなかった。ユダヤ人のイラク脱出は一九四八年のイスラエル建国前後に本格化したのが、七九年のフセイン政権の登場だった。

さて、同政権の崩壊で、海外のイラク系ユダヤ人は帰還するのだろうか。

バグダッド大学の大学院で学ぶユダヤ人シャルフバニ（36）にインタビューしたカナダのエドモントン・ジャーナル（二〇〇三年五月三日付）は、こう報じた。

「その可能性はまったくない、とヤコブ・シャルフバニは言う。彼は、何度も裏切られ

てきただけに、(フセイン政権崩壊後) 新しい民主的なイラク政府が誕生し、あらゆる人々に自由と正義を与えるなどとはとうてい信じられない」

シャルフバニ発言の本音を推し量れば、反ユダヤ主義が一般化したイラクで、いかなる新政権であれ、とりわけユダヤ人に対して自由と正義を保障するとはとうてい考えられない、また、そうした国にどうしてユダヤ人が帰ってくるだろうか——となるう。シャルフバニ自身、インタビューに今後早期にイラクを離れる決心と語っていた。そして二〇〇七年六月、バグダッドに残るユダヤ人はわずか八人とされた。

反ユダヤ主義の荒唐無稽性

中東イスラム世界の反ユダヤ主義について、筆者は一九九二年四月二十五日付読売新聞にこんな記事を書いた。当時筆者は、同紙のカイロ支局長だった。

*

エジプト・イスラエル平和条約締結(一九七九年三月)以来、初のイスラエル人スパイ事件がカイロで摘発され、このほど初公判が開かれた。だが、事件の真相が一向に判明しない中で、エジプトでは『エジプト青年にエイズを蔓延させ、国力衰退を狙った』などと憎悪むき出しの過熱報道だけが目立ち、根強い『反ユダヤ主義』を浮き彫りにした格好だ。

一九九二年二月三日、カイロ北方ヘリオポリス・ノズハ地区のアパートを警官隊が急襲し、前年暮れからエジプト観光に来ていたイスラエル人の元鉛管工ファレス・モスラティ(41)と娘のファイカ(17)を逮捕し、現金五万ドルを押収した。「イスラエル・スパイ団モスラティ一家事件」の発端だった。

一週間後の十日、偽造旅券でリビアからエジプト入りを図ったモスラティの息子マギドが、さらに翌十一日、モスラティを通訳に雇っていたイスラエル人中古家具商デビッド・オビツが地中海岸のアレキサンドリアで逮捕され、事件の顔触れがそろった。

九日、事件担当のアブデルハリム・ムーサ内相(当時)が、父娘はイスラエル情報機関モサドからエジプトの軍事目標、有力者の情報収集を託されていたと語ったため、「(モスラティ一家のスパイ)任務はイラクの核兵器開発に参加し、湾岸戦争直前に帰国していたエジプト人核専門家の情報収集」「プトロス・ガリ国連事務総長(前エジプト副首相)(当時)暗殺が任務」などと報道はエスカレートした。

極めつけは「エジプト国力衰退工作説」だった。ファイカはエイズ(後天性免疫不全症候群)ウイルスのキャリア(保菌者)であり、多くのエジプト青年を誘惑して感染させ、エイズ蔓延を図ったというもの。「ファイカは逮捕時、エジプト青年と同じベッドにいた」「関係したエジプト人青年は五〇人以上に上る」などと報じられたが、彼女が本当にキャ

リアかどうかは確認されていない。

しかし、過熱報道とは裏腹に事件の正確な内容は一向にはつきりしない。イスラエル政府は事件との関係を全面否定。加えてムーサー内相が「モサドとは言わなかった」と先の発言を訂正したり、検察当局が発表をなぜか控えたせいもある。さらに、「リビア・コネクション」がナゾを深めた。一部エジプト紙によると、モスラティ一家に課せられた重要任務はリビアの情報収集で、最終的な狙いはスパイとしてのリビア永住だったという。一家はイスラエル国籍を持つが、今世紀初めにリビアからパレスチナ（現イスラエル）に移住したいをゆる「イスラエル・アラブ人」で、イスラム教徒だった。

もう一つのリビア・コネクションが、エジプト野党紙ミスル・ファタハの存在だ。同紙は「ユーリ・パンシマンという名のモサド幹部が事件の直接責任者」などと、過熱報道の急先鋒を務めたが、同紙はリビア情報機関から資金援助を受けているとのうわさもある。イスラエル紙エルサレム・ポストは事件発覚直後、実は一家の雇い主はリビアだったとするイスラエル消息筋の話を伝えた。

三月二十九日、事件の初公判が開かれ父娘が出廷した。審理は非公開で行なわれ、モスラティは犯行を否認したが、出廷前暴れたため、スパイ事件とは別に懲役三年半が言い渡された。一方、ファイカは犯行を認めたと発表されたが、自供内容などは発表されなかつ

た。事件の真相は霧の中のまま、二人の四十五日間の拘置延長が決まった。

*

反ユダヤ主義の存在は中東アラブ世界では一般化し、ほとんどニュースにはならない。その中で、「イスラエル・スパイ団モスラティ一家事件」の過熱報道は、反ユダヤ主義が持つ虚偽性や荒唐無稽性をまさに「浮き彫り」にしたように筆者には見えた。後に、ファイカがエイズ・ウイルスのキャリアではなかったことも確認されている。

ところで、本書は隔月誌「みるとす」(ミルトス発行)に二〇〇三年六月から三十回にわたって連載した「アラブはなぜユダヤを嫌うのか」を一冊にしたものだ。その初回に取り上げたのが「イスラエル・スパイ団モスラティ一家事件」だった。

というのも、この事件こそ、筆者が「中東イスラム世界に広がる反ユダヤ主義」に着目する契機になったからだ。荒唐無稽極まるユダヤ人陰謀説を、歴史経験の豊かなエジプト人がなぜ受け入れ、大騒ぎするのか――。思い至ったのが、多くのアラブ人イスラム教徒をマインドコントロールするかに見える反ユダヤ主義の広がりだった。

アラブはなぜユダヤを嫌うのか／目次

I 章 ユダヤ人陰謀説に見る反ユダヤ主義

ユダヤ人陰謀説が生きている世界 12

反ユダヤ主義のイスラム化 17

砕かれた米同時テロ・ユダヤ人陰謀説 22

ホロコースト否定の新たな連鎖 27

アラブの反ユダヤ主義と「血の中傷」 32

「ユダヤ人の・・・支配」という妄想 37

II 章 イスラム教に内在する反ユダヤ感情

「猿と豚の子孫」という蔑称 44

預言者ムハンマドのユダヤ人への譲歩 49

イラン大統領の過激言動 55

トルコ新大統領の旧師の反ユダヤ主義 60

イスラム過激主義の抛り所(上) 65

イスラム過激主義の抛り所(中) 70

イスラム過激主義の抛り所(下) 75

III章 イスラム教改宗ユダヤ人への反感

ドンメー——ムスリムに改宗したユダヤ人(その一) 82

ドンメー——ムスリムに改宗したユダヤ人(その二) 87

ドンメー——ムスリムに改宗したユダヤ人(その三) 92

ドンメー——ムスリムに改宗したユダヤ人(その四) 97

改宗ユダヤ人ビンサバと異端教義 102

ユダヤ人を祖父に持つアルカーイダ・メンバー 107

イスラム教に改宗した最初のラビ 112

預言者ムハンマドとユダヤ教徒の妻 117

IV章 パレスチナ過激派などの反ユダヤ論理

- イスラム過激派が「ユダヤ権益」を標的にする理由 124
- アッバースPA議長が書いた反ユダヤ主義本 129
- パレスチナ人ウラマーの反ユダヤ主義説教 134
- ハマースの反ユダヤ主義 139
- エジプト・イスラム過激派の自爆テロと反ユダヤ主義 144
- パレスチナ紛争にアルカイダ系組織参入か 149
- 「第二次レバノン戦争」と反ユダヤ主義発言 154
- テレビ子供番組の反ユダヤ主義 159

あとがき 165

索引 170

I 章
ユダヤ人陰謀説に見る反ユダヤ主義

ユダヤ人陰謀説が生きている世界

「陰謀説（コンスピラシー・セオリー）」とは、特定の人間ないしは人間集団の陰謀によって歴史が動かされるといふ考え方だ。中東は一九四八年のイスラエル独立はじめ歴史の動きが激しく、また多様だったせいか、この陰謀説が盛んだ。しかも、そのほとんどが「反ユダヤ主義（アンチ・セミティズム）」に基づく「ユダヤ人陰謀説」だ。

近年、中東・アラブ世界を文字どおり席卷したユダヤ人陰謀説に「九・一一テロはユダヤ人の犯行だった」という説がある。事件発生当時、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長としてエジプトに滞在していた保坂修司・現近畿大学教授は『季刊アラブ』二〇〇二年冬号で同陰謀説を批判して次のように書いた。

*

ユダヤ人説の根拠として挙げられた証拠は次のようなものだ。(A)(襲撃されたニューヨークの世界)貿易センターに勤務するユダヤ人四〇〇〇人が事件当日、仕事を休んでいた。……カイロにいるあいだ、何度もエジプト人から、九・一一事件ではユダヤ人は一人も死んでいないという「事実」を聞かされた。……ではなぜユダヤ人がこんなことをしなければいけないのか。これについてもいろいろな説が提示されているが、シオニズムの世界征服活動の一環説だけを挙げておこう。もちろんその根拠は『シオン賢者(長老)の議定書』(英語でザ・プロトコールズ・オブ・ザ・エルダーズ・オブ・サイオン)だ。

*

『議定書』^{プロトコール}は、ロシア帝国秘密警察(オブラーナ)が二八九〇年代末から一九〇〇年代初めにかけて偽造したとされる有名な反ユダヤ主義の偽書だ。ユダヤ人指導者が十九世紀末に世界征服の陰謀を決めたという内容で、ナチス・ドイツがホロコーストを正当化する口実ともなった。代表的なユダヤ人陰謀説として挙げられるものに「イスラエルはユダヤ人が全世界を支配するために使う基地」という説があるが、これも『議定書』に依拠した陰謀説だ。

二〇〇二年暮れ、この『議定書』を主題にしたテレビ・ドラマがエジプトで放映された。

読売新聞（○二年十一月十八日付）によると、このドラマは民放ドリム・チャンネルが製作した『馬のない騎士』（全四十一回）で、ラマダン（イスラム教の断食月）の特別番組として、同局と国営テレビで同時放映された。ストーリーは、十九世紀末から二十世紀初めにかけて英植民地支配と戦ったエジプト人ジャーナリストが、ユダヤ人の世界征服計画を発見、真の敵は英国ではなくユダヤ人だと知るといふもの。米国のユダヤ人団体が反発、米国務省もエジプト政府に放映中止を求めたが、「他国の番組に口を出すのは文化的テロ」と拒絶されたという。

「ポケモン」もユダヤ人の陰謀？

ところで、中東世界のユダヤ人陰謀説論者は——その主唱者たちのほとんどがアラブ人ウラマー（イスラム教における知識人・学者）だが——実にさまざまなものにユダヤ人の陰謀を嗅ぎ取るようだ。○一年春、これら陰謀説論者がやり玉に挙げたのは、日本の人気アニメーション「ポケモン」だった。

まず、サウジアラビアのグランド・ムフティ（イスラム教最高法官）がポケモンとポケモン・グッズの販売・購入を反イスラム的として禁止するファトワ（イスラム法裁定）を発売した。同ムフティは、その理由として（１）ポケモン・カードが反イスラム的な宗教



ポケモングッズ。アラビア語で「ブキムーン」と表記。

のシンボル、例えば「ダビデの星」や「十字架」、そのほか様々な宗教やカルトのシンボルを使用していること、(2) ポケモン・ゲームがダーウインの進化論を採用した反イスラム的な賭博ゲームであること——を挙げた。

そもそもポケモン自体がユダヤ人の陰謀の産物という説も広まった。ヨルダンのイスラム教原理主義組織「ムスリム同胞団」の指導者は、「(ポケモンは)ムスリム(イスラム教徒)の子供たちを異端と偶像崇拜に導くことを謀ったユダヤ人の陰謀」とし、ポケモンの「歪められたキャラクター」は「イスラムとコーランの純粋性」の明らかな反対物だと決めつけた。こうした主張をアラブ諸国の幾つかが受け入れ、サウジと同じようにポケモン・ゲームや同グッズの取引を禁止した。

イスラエルの英字紙エルサレム・ポスト(〇一年四月二十九日付)は、この陰謀説に伴い、「ポケモン」が「ユダヤ人」という意味の日本語だとか、シリア語で「私はユダヤ人」という意味だとかといった噂がヨルダンで広がったことを紹介している。ユダヤ人陰謀説